

任送最大手 ヤマコン佐藤社長に聞く

今年にはコンクリート任送工事も活況となりそうだ。首都圏では東京オリビック・パラインビック関連工事のほか、複数の大型プロジェクトが動き出す見込みとなっている。東北でも引き続き東日本大震災復興工事、山形県内も複数のプロジェクト工事の計画がある。国内最大手の任送業者、ヤマコン（山形市）の佐藤隆彦社長に事業の近況と今後の展望を聞いた。同社のコンクリートポンプ車は昨年公開された映画『シン・ゴジラ』に登場し、ポンプ車両の認知度向上にも一役買っている。



「シン・ゴジラ」にも登場した38mブームのポンプ車



—まず、昨年を振り返ってください。

「首都圏では昨年、東京オリビック・パラインビック関連工事が多かった。さらに、オリビック関連以外でも建築工事で鉄骨（S）造への設計変更が相次いだほか、受注した工事の普工控えなど様々

な要因で仕事が停滞し、当社も例外なく影響を受けた」

—新国立競技場は昨年未に着工し、今年は様々なプロジェクト物件工事がスタートするとの期待が高い。

「今年の間違いないく東京オリビック関連工事がスタートする。想定より1年遅れた

でしようか。東日本大震災の復興工事は15年度がピークだった。今は三陸や福島県浜通りの一部地区を除いてピークアウトしている」

「三陸では石巻から気仙沼にかけての南三陸エリアで関連工事が続いており、当社も一定の仕事量を確保して

待てなかった。県内の高速道路網の整備が遅れたが、霞賜地区では東北中央自動車道、庄内地区は日本海沿岸東北自動車道の工事が進む。また、山形市内では製薬会社の大規模工事が昨年夏から始まり、今年いっぱい続くほか、山形駅西口の文化会館も今年後半の期待

五輪工事本格化へ

老朽車の人替え進める

物件だ」

—ポンプ車の老朽化が課題です。

「東日本大震災以降、コンスタントに車両の入れ替えを進めてきた。当社は元々、石川島建機（現力トウハイコム）の車両を中心に使ってきたが、今は社依存を弱め、年間10台程度、複数メーカーの車両を取り入れてい

いる。福島第一原子力発電所向け工事も請け負っているが、原発向けは事前の情報が少なく、普工後も工事がストップするなど、非常に対応が難しい」

シン・ゴジラに全面協力 ポンプ車のPRに貢献

日本建築学会全国大会でも論文発表を行っており、昨年も3本の論文を学識者や配管機材メーカーと共同で発表した。任送前後の品質変化や管内圧力、輸送管の摩耗など関心が高い。

「映画制作会社から一昨年、話を聞いたとき、当社も全面協力した。どのシーンで用いるかは知らされなかったが、重要なシーンでの活躍に非常に満足している。映画を見た方は建設業界と関係ない方々が多いが、ポンプ車という車両を認知していた。昨年10月に山形市内の映画館で上映した際にポンプ車を展示したところ、山形県内だけでなく、首都圏からわざわざ見に来られた方もいた。その点でも協力した甲斐があった。興業収入が80億円を超え、話題性もあつたので、そう遠くないうちにテレビの地上波でも放送されるだろう。お茶の間でも一度、映画館で見たい」

「当社は任送業以外に太陽光発電事業や配水管のライニングなども手掛けている。太陽光発電はこれまで小規模だったが、今年6月には青森県八戸市で約5000kW出力の発電所が竣工する。太陽光発電事業は任送設備に続く第三の柱に育てたい」

「『三浦記念賞』を当社が団体が受賞した。コンクリート任送業者として50年間の取り組みと、任送も含めた幅広い事業が評価されたようだった。山形市民として三浦記念賞を受賞できたことは誇りに思う」

「『シン・ゴジラ』に当社のポンプ車が登場したことも良かったが、山形市で産業経済の向上に貢献があった個人、団体をたたえる

「『シン・ゴジラ』に当社のポンプ車が登場したことも良かったが、山形市で産業経済の向上に貢献があった個人、団体をたたえる

「『シン・ゴジラ』に当社のポンプ車が登場したことも良かったが、山形市で産業経済の向上に貢献があった個人、団体をたたえる

「『シン・ゴジラ』に当社のポンプ車が登場したことも良かったが、山形市で産業経済の向上に貢献があった個人、団体をたたえる

「『シン・ゴジラ』に当社のポンプ車が登場したことも良かったが、山形市で産業経済の向上に貢献があった個人、団体をたたえる